



巻 頭 言

国土交通省東北運輸局長 長谷川 伸 一

平成 23 年 3 月 11 日、マグニチュード 9.0 の巨大地震と、それに続く大津波、原子力発電所事故により、東北地方は想像を絶する被害を受けました。

今回の震災により、お亡くなりになられた多くの方に心より哀悼の意を表させていただくとともに、被害に遭われた方にお見舞いを申し上げます。

東北地方の鉄道も沿岸部を中心に甚大な被害を受けました。しかしながら、列車乗務員の方々のその場の適切な判断等により、乗客にひとりの死傷者を出すこともなく、またその後は、鉄道事業者・関係者の不眠不休の努力により、多くの路線が運行を再開し、社会経済や地域住民にとって重要な公共交通機関としての役割を果たしています。この間の関係者のご尽力に深く感謝し、改めて敬意を表する次第であります。

震災直後の非常事態のなかで各鉄道事業者のとした初期動作、復旧期間中の代替輸送、関係各機関との連携・協力体制など復旧に際してなされた様々な対応は、今後の鉄道防災対策を考えるうえで極めて重要な経験であり、それらを全国の鉄道関係者、並びに、後世に伝えることは実際に震災を経験した我々の使命であると考えています。

こうした背景から、未曾有の大震災を経験した東北の鉄道関係者によって、被災状況、緊急措置、復旧工事等の記録や震災で得られた今後への教訓等を本誌にとりまとめました。より多くの鉄道関係者・防災関係者に御一読いただくことを期待するものであり、今、活発な議論が行われている首都直下地震、東海地震、東南海地震、南海地震等への備えの一助になればと思っています。

最後に、震災から 1 年以上を経た現在においても沿岸部約 300km の鉄道が運休しています。引き続き、関係者とともに東北の鉄道の復旧・復興に全力で取り組むことをお誓い申し上げて、本誌発行にあたっての言葉とさせていただきます。